



2024年2月14日

日本鉄道労働組合連合会

参議院本会議において榛葉賀津也議員が代表質問

2月2日の参議院本会議では、政府四演説に対する各政党からの代表質問が行われ、JR連合国会議員懇談会の会長を務める榛葉賀津也参議院議員（国民民主党幹事長）が登壇した。榛葉議員は其中で、JR連合と日頃より意思疎通している問題意識を踏まえ、鉄道政策に係る大きな3つの課題について提起し、岸田文雄内閣総理大臣に各政策の推進を求めた。

鉄道政策の主要3課題について岸田総理に取組を要請

榛葉議員はまず、鉄道の国家予算が道路予算の約16分の1であることを指摘した上で、鉄道政策により注力すべきだと主張した。具体的には、①「物流の2024年問題によりトラックドライバー不足が深刻な問題となる中、貨物鉄道へのモーダルシフトを進めるべく、カーボンニュートラル実現にも絡めた大胆な政策誘導が必要」、②「改正地域交通法はJRが路線廃止をし易くするためのものではなく、あるべき地域交通の姿を皆で考え、構築するための枠組みであり、全ての関係者の理解促進を図るべく実行性ある取組を求める」、③「3/16に延伸する北陸新幹線は、敦賀以西の整備が未定。新幹線ネットワークは隅々まで繋がってこそ意味があり、北陸以外にも北海道や九州、リニア中央新幹線等の未開通区間の早期開通に向けた関係者のより一層の協力を求める」旨を岸田総理大臣に問うた。



岸田内閣の鉄道政策へ丁寧に取り組む姿勢を確認！

岸田総理大臣は、時折榛葉議員が座る議員席に顔を向けるなど丁寧に答弁を行い、指摘された3つの鉄道政策課題の解決に向けてしっかりと取り組んでいく旨を答弁した。

具体的には、①「物流革新緊急パッケージで定めた貨物鉄道輸送量・輸送分担率の目標達成に向け、モーダルシフトに必要な施設整備の支援に取り組む」、②「地域交通法の新しい枠組みの下、その地域にふさわしい公共交通サービスの利便性・持続性・生産性の向上に取り組む」、③「新幹線ネットワークは産業・観光の発展や地方創生、国土強靱化の観点で重要であり、整備新幹線の着実な整備に取り組むと共に、リニア中央新幹線整備に向けた環境を整える」旨答弁し、岸田内閣として鉄道政策へ丁寧に取り組んでいく姿勢を見せた。



今回の総理答弁を踏まえ、JR連合は、政策実現に向けて具体的な働き掛けをさらに強化していく。